

知っていますか？ ヘルプマーク

☎ 福祉課障害者福祉係 ☎ 286-3161

12月3日～9日は「障害者週間」。地域には、若い人、高齢者、持病がある人、障害のある人と、さまざまな人が暮らしています。誰もがお互いの人格と個性を尊重し、支えあう社会、それが「共生社会」です。今月は、外見からは分からない障害がある人などが、身に着けることで配慮や援助を必要としていることを周囲に知らせる「ヘルプマーク」を紹介します。正しく理解し、困っている様子を見かけたときに、そつとサポートをする。「共生社会」の実現に向けて、そんな一歩から始めてみませんか。

●ヘルプマークとヘルプカード

一言で「障害」といっても、その種類や程度はさまざまです。特に、義足や人工関節を使用したり、内部障害、知的・精神の障害や難病を患っていたりする場合、外見では分からないため、電車やバスの優先席に座りにくいなど、困っているのに支援を受けにくく、身体的にも心理的にもストレスを受けやすい状況にあります。「ヘルプマーク」は、このような人などが身に着けることで援助や配慮を必要としていることを示すことができるマークです。また「ヘルプカード」は、災害や緊急時、また日常生活で困ったときなどに緊急連絡先や必要とする支援内容などを記載できるカードです。

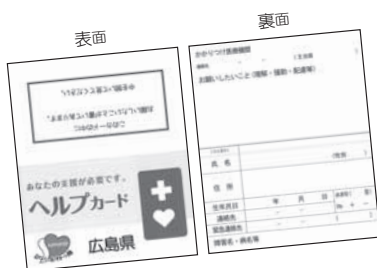
●ヘルプマーク

- ・赤地に白の十字マークとハートがデザインされています。
- ・ストラップで、カバンなどに装着できます。
- ・付属のシールに、名前・連絡先・必要とする支援などを自由に記載し、片面に貼り付けることができます。



●ヘルプカード

名刺大・折りたたみ式のカードです。



ヘルプマーク・ヘルプカードの配布窓口

ヘルプマーク・ヘルプカードは、希望する人に無償で配布しています。

【取得方法】 配布窓口で交付申請書を提出してください。障害者手帳、身分証明書等の提示は不要です。

※配布は1人につき1個・1枚。代理人による受け取りも可。

【配布窓口】

福祉課障害者福祉係（役場2階⑥番窓口）、南交流センター

ほかにもあります

障害に関わる さまざまなマーク

障害のある人に配慮した施設であることや、さまざまな障害について分かりやすく標示するため、主に次のようなマークがあります。次のマークを見かけたときにも、ご理解、ご協力をお願いします。



障害者のための 国際シンボルマーク

車椅子利用者に限らず、障害のある人が利用できる建築物などを示すマークです。



盲人のための 国際シンボルマーク

マークが付いた歩行者用信号機の青信号は、視覚障害のある人のため長めになっています。



耳マーク

聞こえないことを相手に知らせ、聞こえないことへの配慮を求めるためのマークです。



ハート・プラスマーク

心臓、肺、腎臓、膀胱、直腸、小腸、肝臓及び免疫機能など、身体内部に障害があることを示すマークです。



オストメイトマーク

人工肛門・人工膀胱を保有する人(オストメイト)のための設備があることを示すマークです



ほじょ犬マーク

補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)の入店を受け入れることを示すマークで、店の入口などに貼られます。



聴覚障害者標識

政令で定める程度の聴覚障害のある人が運転する自動車に貼ることが道路交通法で定められています。



身体障害者標識

肢体に障害のある人が運転する自動車に貼ることが道路交通法で定められています。

【街中や店舗で】
歩行や階段の昇降、レジでの会計時の動作などが困難な人がいます。困っている様子の人を見かけたら声を掛け、必要に応じて手助けをするなどの配慮をお願いします。

【電車やバスで】
外見では健康に見えても、立っていることが困難な人がいます。優先席を含め、席を譲るなどの心遣いをお願いします。

ヘルプマークを見かけたら

り、自力での避難が難しくかったりする人がいます。危険を知らせ、安全な場所への移動を介助するなどの協力をお願いします。

【普段から心掛けてほしいこと】
声をかけることが出来なくても、普段から次のような心掛けをすることも大切です。

- ・車内などで携帯電話を使用する場合は、ペースメーカーを装着している人にとって生命に関わるものであることを知ったうえで決められたルールやマナーを守る。
- ・風邪などの感染症をうつさないよう配慮する。



誰もが 暮らしやすい 社会に

聴覚障害があり、普段からヘルプマークをつけている国正 悟さんにお話をききました。

●ヘルプマークを着けるようになったきっかけ

聴覚障害者は、後ろから声をかけられても気づくことができなかつたり、自転車でベルを鳴らされても避けたりすることができません。ヘルプマークをつけることで、障害があることを周りにアピールし、声をかけてもらうきっかけになれば、また、そうしたマークがあることをまずは知ってもらいたい、そんな思いでヘルプマークを着けるようになりました。

●ヘルプマークがコミュニケーションの手助けに

ヘルプマークを着ける前のことですが、コンビニで買い物をした際、おつりを忘れ、声をかけられましたが気づくことができませんでした。追いかけてきた店員さんに肩をたたかれてやっと気づいたとき、相手もその時点で、自分が聴覚障害者だと気づき、筆談をすることができました。もし、ヘルプマークを着けていて、相手もその意味を知っていたなら、もっとスムーズなコミュニケーションがとれたのでは、と思います。

●理解することが「誰もが暮らしやすい社会」への第一歩

みなさんに、障害者のことや、ヘルプマークなどの取り組みがあることを、まずは知ってもらいたいです。理解してもらうことが一番だと思います。また、特に聴覚障害者は、社会との接点が少なくなりがちで、孤立する傾向にあると思うので、積極的に話しかけてもらうなど、交流ができればいいと思います。そういう社会であれば、健常者並みに速やかに情報を取得でき、耳の聞こえない人が孤立しない、誰もが暮らしやすい社会になるのではないかと思います。